

市長の施政方針に対する質疑

Q 霞ヶ浦二橋構想、東西縦貫道路、スマートインターチェンジ設置可能性調査、企業立地可能性調査など長期的な施策の取り組み状況について伺う。

A 大型プロジェクトにつきましては、いずれも市の将来的発展を望む事業ばかりであります。市が発展することで安定した雇用が生まれ、活力あふれるまちを作り上げることに傾注してまいります。

Q 企業立地推進の具体的な内容について伺う。

A 市内工業団地の未利用地も少なくなり、事業者より立地可能な土地について問い合わせを受けても、ご要望に十分応えられない状況となっております。そのため、本市としては将来的な産業用地の確保に向けて、千代田石岡インターチェンジ周辺を中心に、具体的な開発手法や企業の進出可能性等にかかる調査に着手し、新たな産業用地の確保に努めてまいります。

Q 市民協働のあり方について伺う。

A 市民と行政のパートナーシップを醸成するために、情報の共有化であり、広報広聴機能を充実させることを目的に市民協働課を創設するものであります。



▲市民協働課（霞ヶ浦庁舎）

Q 健康増進をテーマとする拠点ができるとのことだが、計画内容について伺う。

A 昨年「健康まちづくり宣言」を行ったことから、健康増進の拠点となるよう旧穴倉小学校を（仮称）「かすみがうら市ウェルネスプラザ」として転用し、保健センター、包括支援センター、子ども未来室、社会福祉協議会や作業所、シルバー人材センター等を集約し、保健福祉に関する各種事業を行うことを想定しております。



▲旧穴倉小学校

Q スマートインターチェンジの設置可能性調査による、将来のデザインについて伺う。

A スマートインターチェンジの設置効果は、可能性等調査において裏付けを詳細に整理していくものですが、観光施設へのアクセスの向上、国道6号線の渋滞緩和、市民生活の利便性の向上が挙げられます。また、このような整備効果から企業進出への弾みへとつながり地域経済の好循環が拡大されるような将来設計を見据えたインフラ整備を進めてまいります。

Q かすみがうら花のみちの保全体制の再構築について伺う。

A これまでは景観への配慮という観点から、植栽によって道路を彩ってきたところですが、今後は市民との協働の場として、誇れるような花の街道を共創し、市民との協働体制を構築したいと考えております。



▲かすみがうら花のみち